# 機械勞働組合聯合會脱退に就き

## 機械技工組合の態度を聲明し
## 併せて宣言す

## 一

全國の勞働者諸君!!

我機械技工組合は今、過去二年間行動を共にして來た機械勞働組合聯合會を脱退し、諸君の前に、この聲明書を發表しなければならない事態にたち至つた事を甚だ遺憾とする。

本組合は既に、勞働組合の組織の問題に就いては最も嚴密なる考慮を差向けて來た。從來本組合の決議は中央集權的合同組織に反對し、自由聯合組織に依る方法手段を以つてあらゆる問題に當面し、且つそれを處理して來た。それは即ち勞働者を賃銀奴隷より解放せんとする勞働組合運動の眞髄は、たゞ最も自主自治的なる組合聯合組織の中からのみ生長すべきものであり、同時に來るべき自由社會の基礎をなすものは、そうした組合の自由聯合組織であることを、我々は長い闘爭の體驗の中から明らかに看取し得るが故である。そしてそれは我機械技工組合從來の態度であり、主張であると同時に、從來の機械勞働組合聯合會の態度であり、主張であつたことは、既に諸君周知の事實であると思ふ。

## 二

然るに震災以來、日本資本主義政府のとれる種々なる恐怖政策や、誤魔化し政策やの中に、普通選擧實施の約束手形を見出すや、一度びは恐怖政策に怯えて鳴りをひそめたる勞働運動の野心家共は、その射利的なる職業根性より期せずして一致し、昨日は弊履の如く捨てゝ顧みざりし議會政策、政治運動の看板を慌しく拾ひあげて、勞働階級餓喘の屁理屈をコネ廻はすことに熱中した。彼等の野心が、普通選擧運動に依り無自覺なる勞働者を踏臺として、現在資本主義議會の中に一頭角を現し支配階級として全ての勞働者を統治せんとするにあることは察するに難くない。その野心の、最も露骨に具體化したところのものは、實に彼等の自由自在にして鮮やかなる方向の轉換である。

## 三

機械勞働組合聯合會は、從來、各加盟組合の自由聯合組織を主張しその實行によつてあらゆる問題を解決して來た。聯合會に於て協議せらるゝあらゆる議案は最も速かに、必らず滿場一致によつて可決され、實行され來つたところの、實に模範的自由聯合組織であつたのである。

然るに最近、その聯合會内部に於いて、多分は震災後政府のとつた種々の誤魔化し政策、或は恐怖政策の影響を受けたゝめであらうが、かつては絶對に反對し、若しくは全然否認して來た、組織變更説、職業的幹部必要説、國際勞働者誤魔化し會議承認説、更らに下つては議會利用説をまで主張する人々が現はれ、而もそれらの人々の主張と運動とが次第に具體化して來て、遂に三月十六日芝協調會館に於て、機械勞働組合聯合會臨時大會を開催するの運びにたち至つたのである。

## 四

三月十六日、機械勞働組合聯合會臨時大會に現はれた議案は、

一、聯合會機關誌變更ノ件
一、研究部設置ノ件
一、宣傳部設置ノ件
一、國際勞働會議ニ對スル態度決定ノ件
一、專任委員設置ノ件
一、宣言發表ノ件

であつた。

第一の議案は、機關誌を從來の雜誌形から新聞紙形に變更することによつて毎月四十圓とかを節約し得るといふので、多少でも組合員の負擔を輕減し得ることなのだから、もとより反對のあらう筈はなく、滿場一致を以て可決された。

第二の研究部設置ノ件は、純勞働者組合の提案であり、其具體的説明によると、研究部内に講師として〻はなく、部員として智識階級を入れる、とのことである。勞働組合が、その組織及び運動方法、若しくはその最も重要な目標である總ての奴隷狀態より勞働者を完全に解放すべき手段方法及び來るべき自由社會の組織等に就いて、不斷の研究を要することは言ふまでもない。我機械技工組合に於てもその必要を考へて、毎月二三回づゝの研究會を開催し來つた程であるから、研究といふことに就ては勿論異存はないが、その部員として智識階級を入れなければならぬ必要は絶對に認め難い處である。過去に於て我々が勞働組合運動の内部から智識階級を排斥すべきことを極力主張したのは、智識階級の多く用なからではない、智識が我々に不がその階級的優越感から、稍々もすれば勞働者を支配し、これに君臨せんとするものなることを、經驗によつて看破したがためである。若も知識を得ることが必要であるならば、本組合に於て現に屢々實行しつゝあるが如く、單に講師として招くことによつて、その目的は充分達せらるゝのみならず、そうすれば講師を變更すること自由自在なるが故に、單に一二の人間を部員として固定するに比して遙かに廣い範圍に渡つて必要な智識を得ることが出來る筈である。若し又その智識階級が部員としてなら熱心にやるが講師としてならばやらないといふ樣なアブナッカしい者で有つたら、そんな奴をわざわざ頼む必要はない。宜しく一蹴し去るべきである。

この議案に對しては、大體前述の如き理由によつて本組合及び勞技會が熱心に反對したにもかゝはらず、鮮やかなる多數決ぶりによつて可決されたのである。

第三の宣傳部設置ノ件も、同じく純勞働者組合の提案であり、其體案としては、智識階級或は法律顧問を部員として加へ、新聞宣傳及地方への出張宣傳を取扱ふ、といふので大體に於て第二の議案と同工異曲である。從つて本組合が智識階級を部員に加へるといふことに對して極力反對したことは言ふまでもない。が、この議案も前同樣多數決によつて遂に可決されてしまつた。

## 五

第四の國際勞働會議ニ對スル態度決定ノ件は、實は決定の件にあらずして、既に否認と決定して居た態度を變更するの件である。そしてその内容は三つに分れる。一は國際勞働會議代表は、現在政府二名、資本家一名、勞働者一名であるのを、資本家と政府とは大體同じ樣なものだから、政府代表二名を削除し、資本家勞働者各々一名づゝの代表を出して戰ふ、といふ本芝勞働組合の提案であり、二は國際勞働會議に於て既に可決されたものが、その大部分は實行されて居らぬから、その實行促進運動を起すべし、といふ勞技會の提案。三は今年度の會議に代表を選出するや否や、といふので純勞働者組合提出の緊急動議である。

この議案に對して本組合は、從來の機械勞働組合聯合會の主張と同一の理由、即ち國際勞働會議なるものは、彼の歐洲大戰中から戰後にかけて世界各國に於て猛烈な勢びをもつて發達しつゝあつた勞働運動に、一大不安を感じたる世界の資本主義政府の代表者共が、講和會議に際し從來の武斷的强壓政策の無効を知つて新たに、この一大反逆運動を去勢せんがために考へ出した處の國際勞働者誤魔化し機關である。從つてそれは資本家や勞働者の代表が集つて戰ふためのものではなくて、如何に勞働者の反抗運動を誤魔化して、資本主義社會の永續を謀るべきかを協議するためのものである。我々勞働者を少しでも永く賃銀奴隷の狀態に止どめ置かんとする機關、それを知らないでならば兎に角、充分にそのカラクリを知つて居り乍ら、その不都合極まる國際勞働會議なるものを承認することは斷じて出來ない。

若しも本芝勞働組合の提案の樣に國際勞働會議なるものゝ組織の不都合を知つて改造せんとする程の意氣があるならば、何故に更らに一歩を進めて、その會議を否認し、その會議に勞働者の代表を選出せざることによつて、國際勞働會議そのものゝ生命を失はしめ、それをして單なる國際資本家會議に終らせることを考へないのだらうか?それは勞働團體の主張によつて會議の組織を改造せんとするよりも、代表選出權が勞働團體に在る今日、遙かに容易に實現し得べき筈である。

大體以上の如く、本組合としては國際勞働會議そのものを根本的に否認するが故に、極力反對したが、結局やはり多數決によつて、一、二、はそのまゝ、三は純勞働者組合の主張通り、今年は準備も出來て居らず政府が會議の結果を實行するや否やを見る必要もあるからといふので今年度は選出せざることに、それぞれ可決された。

## 六

第五の專任委員設置ノ件は、聯合會々務を取扱ふために月給取り幹部數名を置く、といふので、純勞働者組合及び車輛工組合の提案である。提案者及びその贊成者の説明によると、それ等の人々は、震災後機械勞働組合聯合會の活動が活潑を缺き、その復興が他の團體に比して非常に遅れたと稱しこれを指して聯合會に有給幹部がないためであると附會し月給取り指導者を置く總同盟の中央集權的組織を讃美し、機械聯合會の自由聯合組織を、それの如く一の能動的な有機體に變更するの必要を主張した。

これに對して本組合は、震災後勞働組合運動の澁滯は、獨り機械聯合會のみに止どまらず、その自由聯合組織たると、中央集權的合同組織たるとを問はず、震災被害區域内に於ける總ての勞働組合が、交通、通信兩機關の停止、活動的な鬪士の檢束、避難等のために何れも影響せられた爲であつて、これを以つて直ちに中央集權組織を讃美し、有給幹部設置の理由として認めることは斷じて出來ない。

中央集權組織と有給幹部とが勞働組合運動の上に及ぼす大きな弊害に就しは、過去に於て既に充分論じ盡されて居ることだからこゝに繰り返すまでもあるまいが、そういふ弊害のある有給幹部などを置かなくとも從來實行し來つた樣な自由聯合組織と、無給委員の努力とによつて、充分聯合會の運動をなし得べきことを信ずるが故に極力反對したが、これも亦例の多數決によつて遂に可決されてしまつたのである。

## 七

第六の宣言發表の件は、いふまでもなく、機械聯合會が以上第二乃至第五の決議に依つて、從來の組織、從來の運動方法から全然方向を轉換したることを社會に發表せんとするものである。

そこで本組合としては、それらの議案の總てに絶對に反對であり、機械聯合の方向轉換に反對である以上本組合の意志と全然相反ずる宣言の起草若しくは發表に參加するの心要を認めないので、この議案の協議中本組合は斷然退席するに至つたのである。

## 八

この機械勞働組合聯合會臨時大會に於て多數決に依つて可決せられたる議案を通じて明らかに看取し得るのは、それらの議案がそれぞれ相通ずる連絡を有し、將來、機械勞働組合聯合會をして、一つの中央集權組織たらしめんための前提運動だと見ることが出來る。殊に第四の國際勞働會議承認の如きは、明らかに政治運動であり、第五の有給專任委員設置に至つては疑ふ餘地なき中央集權の承認である。

中央集權組織がその民主的なると專制的なるとを問はず、人を權力の奴隷とするものであり、政治運動が勞働階級を奴隷狀態から解放するための運動ではなくて、勞働階級中の一、二の人間が權力階級に加はるための運動であることなぞは、今さら繰り返すまでもないことである。

## 九

本機械技工組合は、本組合年來の主張たる自律自主的なる運動方針と、機械勞働組合聯合會今後の組織及び運動方針とが甚だしく相反するものなることを知り、且つ又今後機械聯合のあらゆる決議が多數決によつて行はれるであらうことを知つた以上、その對社會的運動に對する本組合の意志と行動とは常に全然抹殺されることゝなり、隨つて聯合會加盟の意義は全然消滅したのである。

こゝに於て本組合は、三月廿三日臨時大會を開催した結果、機械勞働組合聯合會を脱退することに決定した。

機械技工組合は、械械勞働組合聯合會を脱退し、年來の主張たる自由聯合主義を以て進まんことをこゝに宣言する。

さらば機械勞働組合聯合會の諸君、諸君と再び提携し得る日のために、諸君の運動の健全ならんことをに望む。

一九二四年三月廿三日

**機械技工組合**

東京市外大井町五六二